



ばんクリニック

BAN CLINIC



ばん先生と



“気管支喘息”

について知ろう。

この記事が掲載される頃、梅雨は明けているのでしょうか。毎年梅雨になるとぜんそく患者さんの発作が多くなります。梅雨は、気温、気圧、湿度の変化が多く、天候の変化はぜんそく発作を引き起こすと言われていています。また、この梅雨の高温多湿の環境はダニを繁殖させ、ダニ、ダニの死がいやフンもぜんそく発作を引き起こします。ぜんそくの歴史は古く、エーベルス・パピルスという古墳で発見された紀元前 1550 年頃の古文書は、世界で最も古い医学書と言われていて、ここにおそらくぜんそくと思われる呼吸器疾患についての記載があり、れんがで温めたハーブをミックスした煙を吸入させるという治療法が紹介されています。ぜんそくの正式名称は気管支喘息です。気管支とは私たちが呼吸をするとき、空気の通り道になる器官です。ぜんそく患者さんの場合、その気管支に慢性の炎症が起きているため、いろんな刺激（天候の変化やダニなど様々）に対してとても敏感になっています。このため何らかの刺激になるものを吸い込むと、刺激に対抗するため様々な反応が起こります。この結果、気管支の粘膜が腫れたり、大量の痰が溜まるなどして気管支の内側が狭まり呼吸が困難な状態に陥り、呼吸する時に「ヒューヒュー」「ゼーゼー」という音がする喘鳴、呼吸困難が起こります。これが喘息発作と言われるもので、夜間や明け方に起こることが多く、昼間になると自然に治まる傾向にあります。このような症状がある方は一度ぜんそくの検査を受けて頂いたほうが良いでしょう。では、ぜんそくに対して私たちはどのように対応していけば良いのでしょうか？続きは次号ご期待ください。